

【団体名】西三河野生生物研究会

【事業名】「夏休み親子教室2015」

【事業の目的】生き物の研究者から講演を聴いたり、実験、実習などを体験したりすることから、身近な地域の自然や生き物などのようすについて知り、考える機会とする。

【実施内容】7月25日（土）、26日（日）、5年目を迎える夏休み親子学習会を「夏休み親子学習会2015」として開催した。会場は昨年度に続いて安城市民交流センター2階ホールにて、以上のような講座・展示などを行った。

講座第1日目7月25日（土）

○「昆虫の話」

大平仁夫先生（本研究会顧問・河昆虫研究会会長）

コメツキムシ等の分類研究で有名な大平博士に、本年度も講演をしていただいた。昆虫類は種類が多く、いろいろ生き実施内容残るために戦略を工夫している昆虫たちの話や、昆虫や自然のしくみを解明に取り組んできた研究者たちを紹介して、自然を調べる姿勢や意義についてお話しいただいた。

○「昆虫入門ガイド」ー昆虫に親しもうー

山崎隆弘先生（本研究会幹事・三河昆虫研究会副会長）

昆虫の採集の仕方から標本の作り方などをスライドショーを使って、楽しく説明した。さらに、地域で昆虫を観察するのに好適なポイントについても紹介した。

○「セミの抜けがらからわかる都市環境」

金田吉高先生（本研究会幹事・三河昆虫研究会）

気候の温暖化による影響なのか、街路樹や公園などの都市的な環境には、クマゼミが多く見られる。この講座ではセミ類の生態や幼虫の脱皮殻からわかることについて、標本やスライドを使って説明していただいた。

○「植物標本の作り方」

堀田喜久先生（本研究会副会長）

植物や自然環境を理解するために、植物の標本を作ることはよい方法の一つである。植物標本を作り方を、PowerPointやビデオを交えながら説明して、実際に植物を使って子どもたちの前で実演も行った。

○「子どもの自然体験とその後の学習」

金森正臣先生（愛知教育大学名誉教授）

今年度初めて行った保護者向けの講座である。生涯にわたって使える能力や知恵とは。子どもたちが生き物や自然の中で学ぶことで、獲得していく力についてご講演いただいた。参加した保護者の皆さんにはとても好評であった。

○「葉のラミネートカードによる神経衰弱ゲーム」

花井隆晃先生（本研究会幹事）

実物の葉ラミネートしたカードを使った楽しい神経衰弱ゲームを実施した。

講座第2日目7月26日（日）

○「安城市で捕れる魚類の区別の仕方と魚の形」

今泉久祥先生（本研究会幹事）

安城市内の川や水路などで、採集できる魚類の見分け方を、魚の形とともに検索表を使って説明。携帯型の無線LAN を使ったタブレット端末を使ったり、実際に生きた魚を準備したりして、魚の名前を親子で調べる実習を行った。名前を調べた魚は、子どもたちがお土産として希望者が持ち帰った。

○「調べてみよう！かわいいカエルの体のしくみ」

島田知彦先生（愛知教育大学）

先生が飼育しているナガレヒキガエルたちを会場に連れてきて、動くものを餌として認識して口の奥に入れる様子を、子どもたちの目の前で実演した。さらに、ヒキガエルが繁殖時のために、発達したリリースコールや前足の指に発達した突起物など、生態や体の仕組みをわかりやすく説明した。

○ゾウリムシの飼い方・コンデジで撮れる顕微鏡写真

青木舜先生（本研究会幹事）

小鹿亨（本研究会事務局）

青木先生は当日はけがで欠席されたが、飼育培養したゾウリムシを預かって、小鹿が講座を担当した。スライドなどを交えて、胃腸薬を使った意外な殖やし方や、採集の方法などを説明した。大池から採集してきた水を使って、顕微鏡で観察実習を行った。大池のオオアタマミジンコなど、小さな生き物たちの観察や、スマホやコンパクトデジカメで顕微鏡写真を撮影する方法の実習を行った。講座以外にも次のような展示やコーナーを開設した。

○「スライドショー安城の野鳥」

野鳥の生態写真で有名な杉山時雄先生が作成した、「安城で見られる野鳥」のスライドショーを上映した。

○「生き物ペーパークラフト」

ペーパークラフトは昨年度までの昆虫と珪藻に加えて、水生生物やウサギなどが新しく加わって、楽しさが増えた。完成すればとてもかわいらしく、特徴をよく表した造形物になる。持ち帰りができ、人気であった。

○生態写真の展示コーナー

いろいろな生き物の生態写真を展示しました。青木先生の水生昆虫、緒方清人副会長や杉山時雄さんのクモやフクロウの生態写真も展示しました。

○世界の昆虫身近な昆虫

今年も大平先生や山崎さん、金田さんのコレクションから、大型ドイツ標本箱

で約30 箱を展示した。美しいミイロタテハやオオルリアゲハ・トリバネアゲハなど美しい蝶類、大型のアトラスカブトムシやテリオウゼミをはじめ、身近に生息する昆虫類などの標本を展示した。今年度も多数の会員の参加・協力を得て、充実した講座や展示を行うことができた。参加した親子には生き物や自然に興味を持ってもらうことができたと考えている。今年度実施の魚の見分け方では、オリジナル検索表を作成するなど、担当者が独自の教材を準備して取り組んでいる。参加者の多くが親子で来場であり、保護者と協働作業ができるなら、種名検索のようにやや難しい講座内容でも十分に実施が可能であることが確認できた。

【成果・課題】

金森先生の保護者向けの講座は、当初事前申し込みの人数が少なく、定員として設定した数にまったく届かなかったが、実際に講演を聞いた参加者は納得してお帰りいただけたと考えている。事前の情宣に工夫や案内のチラシへの掲載方法を工夫する必要がある。ペーパークラフトは、作業に時間がかかるうえに、各パーツを貼り合わせるのも難しいものもあった。当日会場にいる時間内で作って持ち帰ることができるような、難度の低いものでもよいように思われる。準備が直前になった関係で、展示を兼ねた「完成見本」が間に合わなかったことも次回への課題としたい。なお、行事の当日に参加者の一部にアンケート調査を実施した。（別紙）そこから読み取れる内容として、参加型の講座が期待されていることがわかる。これも次年度以降の企画の参考としていきたい。

【会場】今年度も市民交流センター2階のホールを使用できたので、大きな部屋の中で運営が行いやすかった。準備や片付けでは、交流センターの職員の方にもお手伝いをいただいた。

【参加者・時期】本年度は市民交流センターとも連絡を取りながら、「安城七夕」や小・中学校の安城選手権（水泳大会）など、大きな行事と重なることを避けて、日程を設定した。結果として、昨年度より来場者を増やすことができた。8月の終わりに相談会や標本の同定会を行うのも、より効成果・課題果的ではないかとの反省もあった。次年度には検討したい。アンケートからわかるように、参加者の半数強が小学生で、残り半数がその保護者と考えられる大人であった。小学1～3年生の割合はおよそ8割程度を占めている。一方で、学生はまったく参加がなく、次年度からは、学校には案内を出さなくてもよいか。保護者がついていない状況なら、学校関係だけでなく、保育園にも声をかけてもよいのではという意見が交流センターからあった。センターの方で関係する方面への働きかけができるとのこと。

【その他】本年度も市民交流センターから配慮いただき、各小中学校が夏休みに入る直前に、案内文書を安城市教育委員会の文書配付ルートで市内各小中学

校へ配付することができた。今回は、昨年度より早期に講座内容を決定したので、より情宣が円滑に行えた。今回は一部の講座については、担当とも相談して参加人数に定員を設定した。材料などの準備する数にも見通しができてよかった。